渋谷教育学園渋谷 中学校

所在地／〒150-0002　渋谷区渋谷1-21-18
ＴＥＬ／03-3400-6363
学校長／高際 伊都子
創　立／1996年、渋谷教育学園渋谷中学校を創立。
1999年、高校を共学化し、渋谷教育学園渋谷高等学校を創立。共学の中高一貫校に。
ＵＲＬ／www.shibushibu.jp

	1年	2年	3年
男子	98名	96名	102名
女子	102名	114名	122名
クラス数	6組	6組	6組

中高総生徒数／1229名

〈交通アクセス〉
JRほか「渋谷」駅より徒歩7分　東京メトロ千代田線ほか「明治神宮前」駅より徒歩8分

自主性を重んじて、生徒一人ひとりの能力を引き出す

「自調自考」をモットーとする、男女共学の進学校です。自分の未来をきちんと見据え、いま何をすべきなのかを自主的に組み立てられる人間を育てています。自己管理能力を養うため、ノーチャイム制を導入。校外研修などにおいても、現地で集合・解散となるほか、シラバス（学習設計図）を配布して、授業の年間計画を確かめられるようにしています。校舎は地上9階、地下1階のハイテク仕様。透過型薄膜太陽電池ガラスを窓に設置して、発生した電気を校舎の一部で利用しています。

スクールライフ

●教育内容

中高6年間を2年間ずつの3ブロックに分けています。中1・2のAブロックでは主要5教科を重視しています。特に英語に力を入れ、中2で中学の課程を終了し、この時点での英検®3級取得を目標にしています。英会話は外国人講師による少人数制で、系列のイギリス人学校「ブリティッシュ・スクール・イン・東京」とも交流し、コミュニケーション能力を高めるようにしています。国語は現代文と古典と表現、数学は数量と図形の2～3分野に分け、体系的に学習を進めます。Bブロックに入る中3では、英語と数学が習熟度別の少人数授業となります。

■主要5教科の週当たり時間（コマ）数

	英語	数学	国語	理科	社会
1年	7	5	6	4	4
2年	7	5	6	4	4
3年	6	6	6	4	4
合計	20	16	18	12	12

◎1日当たりの授業コマ数：45分×6時限
※火・金曜日は7時限、登校土曜日は4時限（隔週5日制）
◎登校時間：8時20分

●部活動

全国レベルの強豪の柔道部のほか、模擬国連部や英語ディベート部は、国際大会でも優秀な成績を収めています。
○文化系／ ESS、理科、演劇、お琴、合唱、軽音楽、茶道、コンピュータ、美術、文芸、ボランティア、料理、吹奏楽、模擬国連、英語ディベート、クイズ研究会など
○体育系／剣道、柔道、サッカー、卓球、ダンス、テニス、バスケットボール、バドミントン、バレーボール、バトン、ボクササイズ、野球、陸上

●行事

毎年6月には代々木公園で行われるスポーツフェスティバル（体育祭）があります。このほか、飛龍祭（文化祭）、合唱コンクール、スキー教室（中2）、英語スピーチコンテストなどがあります。

●修学旅行・研修旅行

中1の4月には移動教室で埼玉県の秩父へ。新しい仲間と親睦を深めます。10月の校外研修の行き先は中1が鎌倉、中2が信州、中3が奈良。中3の春休みには、希望者を対象としたオーストラリアへの語学研修も行われます。2週間のホームステイで異文化に親しみ、視野を広げます。

マネーガイド

■2023年度納付金（諸経費を含む）

	入学金	授業料	施設費	その他	計
入学手続時	290,000円	0円	70,000円	0円	360,000円
初年度総額	290,000円	498,000円	232,000円	90,000円	1,110,000円

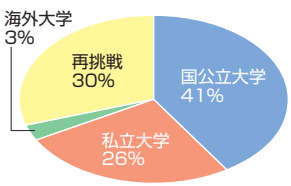
◎寄付金：なし
◎授業料：3期分納
◎奨学金・特待生制度：経済的理由により就学困難と判断される者に、授業料を貸与または奨学金として給付。入試時の成績優秀者を対象に、入学金・施設拡充費・授業料相当額を1年間給付。定員は10名前後

サピックスからの合格実績（過去3年）	'21	'22	'23
	240名	265名	250名

進学指導の概要

高2から文系と理系に分かれます。高3では大幅に選択科目を増やし、主要5教科すべてで受験対策としての演習授業を行います。文部科学省からWWL（ワールドワイドラーニング）構築支援事業の指定を受けているように、高校の英語教育も先進的。外国人講師による少人数制の英会話授業はもちろん、高1からは日本人と外国人の教員チームによるエッセイ指導も始まります。また、中3・高1・2の希望者は、放課後週2回、フランス語、ドイツ語、中国語などの課外講座を受講できます。希望者を対象に、高1・2の夏休みにはアメリカのオレゴン州で3週間、高1の春休みにはイギリスのボーンマスで2週間の短期留学を実施。

■2022年3月卒業生の進路の内訳



■併設高校から主要大学への合格実績

※上段は現役合格者数、下段は浪人を含めた合格者数。

	北海道大	東北大	東京大 文科Ⅰ類	東京大 文科Ⅱ類	東京大 文科Ⅲ類	東京大 理科Ⅰ類	東京大 理科Ⅱ類	東京大 理科Ⅲ類	東京大 合計	京都大	一橋大	東京工業大	東京芸術大	東京医科歯科大	東京外国語大	お茶の水女子大	千葉大	筑波大
21年	5	2	3	9	5	5	6	—	28	5	5	4	2	3	—	1	1	2
	6	2	4	9	6	6	8	—	33	7	5	9	2	3	1	1	3	2
22年	3	2	6	8	4	9	2	—	※32	5	6	3	2	3	1	—	1	1
	5	3	6	11	6	9	3	—	※38	7	7	4	2	4	1	—	3	1
23年	1	7	4	6	8	9	6	—	※35	6	9	5	—	1	—	2	2	1
	1	7	4	6	9	11	8	—	※40	7	10	5	—	1	—	2	3	1

	早稲田大	慶應義塾大	上智大	東京理科大	国際基督教大	学習院大	明治大	青山学院大	立教大	中央大	法政大	津田塾大	東京女子大	日本女子大	文部科学省管轄外の大学校	海外の大学	国公立・医学部	私立・医学部
21年	89	69	29	45	4	2	37	12	11	19	11	1	—	1	2	26	4	16
	110	99	37	64	7	4	60	19	13	29	16	2	1	1	3	26	11	33
22年	125	105	41	38	4	3	47	14	15	15	23	—	1	2	2	30	11	16
	151	117	45	60	4	4	67	19	19	20	29	—	1	2	3	30	13	34
23年	100	78	35	45	—	1	46	11	5	12	7	—	1	1	2	37	7	12
	119	85	38	51	2	1	58	13	9	15	12	—	1	4	2	37	11	26

※2023年の東京大学の合計には、法・教養学部に合格した推薦入試合格者2名が含まれています。

入試情報

■2023年度の入試結果

		募集人員	応募者	受験者	合格者	実質倍率
1回	男子	70	163	142	54	2.6
	女子		283	270	57	4.7
2回	男子	70	522	455	149	3.1
	女子		372	332	72	4.6
3回	男子	23	422	301	43	7.0
	女子		358	275	23	12.0
帰国	男子	12	97	94	16	5.9
	女子		117	113	31	3.6

■2023年度入試 合格者の教科別平均点

		算数	国語	理科	社会	合計
1回	男子	52.0	61.9	39.7	31.6	—
	女子	49.7	68.0	37.4	31.2	—
2回	男子	77.6	76.1	36.6	33.2	—
	女子	73.5	82.7	36.6	33.4	—
3回	男子	70.6	71.0	37.8	37.9	—
	女子	73.0	74.8	38.9	38.6	—

○配点：算国＝各100点　理社＝各50点
○合格最低点：1回男子168点・女子180点　2回男子208点・女子217点
3回男子208点・女子212点　帰国は非公表

24年の募集要項

入 試 日／①2月1日 ②2月2日 ③2月5日、帰国1月27日
募集人員／男女163名(①70名 ②70名 ③23名)、帰国12名
合格発表／掲示、ホームページで翌日発表
手続締切／2月12日 帰国1月30日
試験科目／国語(50分・100点)、算数(50分・100点)、理科(30分・50点)、社会(30分・50点)
面　　接／なし
帰国生のための試験／英語(60分・100点)、国語(50分・100点)、算数(50分・100点)、英語面接、または国語(50分・100点)、算数(50分・100点)、作文(60分・20点)、面接
受 験 料／23,000円(2回受験は38,000円、3回受験は53,000円)

公開行事・説明会予定

【学校説明会】WEB予約制
10月21日(土)
11月18日(土)
※各回とも入試問題の傾向と対策について。
　希望者を対象に校舎見学も実施
【飛龍祭(文化祭)】WEB予約制
　9月　8(金)、9日(土)
◆変更・中止の可能性もあります。必ず学校ホームページで確認してください。

サピックスOB・OGの声

●6月のスポーツフェスティバル（体育祭）は、代々木公園陸上競技場で行われます。生徒は青、赤、黄、紫の4色に分かれて競い合うのですが、どのクラスも大会に先立っておそろいのTシャツを制作します。中1は全員参加のリレーが毎年恒例となっています。

●帰国生が多く、休み時間には英語でおしゃべりする声が聞こえてくるなど、とても国際性が豊かな環境です。地理の授業では、実際にその国や地域に住んだことのある生徒から現地の様子を聞くこともあり、そんな環境に触発されて、わたしも学校の国際交流プログラムに参加したいと思うようになりました。